



2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月8日

上場会社名 古河機械金属株式会社
 コード番号 5715 URL <http://www.furukawakk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3212-7021

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	129,543	5.7	6,181	1.7	5,550	23.9	3,752	12.4
2018年3月期第3四半期	122,530	14.4	6,286	54.3	7,292	43.4	4,282	31.3

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 1,333百万円 (%) 2018年3月期第3四半期 9,726百万円 (41.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	93.33	
2018年3月期第3四半期	106.00	

2017年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	230,972	82,502	34.8
2018年3月期	222,211	87,086	38.3

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 80,306百万円 2018年3月期 85,011百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		50.00	50.00
2019年3月期		0.00			
2019年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	174,600	4.1	7,700	1.5	6,500	19.8	4,500	5.7	113.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	40,445,568 株	2018年3月期	40,445,568 株
期末自己株式数	2019年3月期3Q	904,027 株	2018年3月期	41,964 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	40,211,913 株	2018年3月期3Q	40,404,029 株

2017年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
2018年3月期 第3四半期決算短信 補足資料	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年4月1日～同年12月31日)の我が国経済は、相次ぐ大規模自然災害により一時的に落ち込みましたが、災害の影響収束に伴い、挽回生産や物流の回復等により持ち直しました。また、人手不足に伴う省力化・効率化に向けた設備投資も底堅く、緩やかな回復が続きました。一方で、景気の先行きについては、米中貿易摩擦の激化や世界経済悪化の懸念、金融資本市場の急激な変動等、不透明感が高まる状況となりました。

このような経済環境の下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,295億43百万円(対前年同期比70億12百万円増)、営業利益は、61億81百万円(対前年同期比1億5百万円減)となりました。売上高は、産業機械、ロックドリル、ユニック、金属、電子部門で増収となり、営業利益は、主として、産業機械、ユニック、電子部門で増益となりましたが、金属部門は減益となりました。

各報告セグメントの売上高と営業利益の状況は、以下のとおりです。

産業機械部門の売上高は、117億5百万円(対前年同期比17億53百万円増)、営業利益は、7億93百万円(対前年同期比6億22百万円増)となりました。破碎機やスクリーンなどのマテリアル機械やポンププラントのほか、大型プロジェクト案件では、東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤ、小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役設備のほか、特定廃棄物セメント固型化処理設備(福島県双葉郡楡葉町)について出来高に対応した売上高を計上し、増収となりました。

ロックドリル部門の売上高は、232億42百万円(対前年同期比8億62百万円増)、営業利益は、14億1百万円(対前年同期比21百万円減)となりました。国内向けは、堅調な建設設備投資を背景に、油圧ブレーカや油圧圧砕機の出荷が増加し、また、北海道整備新幹線、熊本地震復旧・復興工事向けなどトンネルドリルジャンボも順調な出荷となり、増収となりました。海外向けは、主として北米市場において、油圧ブレーカ、油圧クローラドリルの出荷が増加し、増収となりました。

ユニック部門の売上高は、217億67百万円(対前年同期比12億52百万円増)、営業利益は、21億4百万円(対前年同期比2億49百万円増)となりました。国内向けは、移動式クレーン構造規格の一部改正に伴う駆け込み需要により、主力製品であるユニッククレーンの出荷が増加したほか、ユニックキャリアの出荷も好調で、増収となりました。海外向けは、主として、中国におけるユニッククレーンと、欧州向けミニ・クローラクレーンの出荷が好調で、増収となりました。

産業機械、ロックドリルおよびユニックの機械事業の合計売上高は、567億15百万円(対前年同期比38億68百万円増)、営業利益は、42億99百万円(対前年同期比8億50百万円増)となりました。

金属部門の売上高は、602億39百万円(対前年同期比30億66百万円増)、営業利益は、3億17百万円(対前年同期比10億84百万円減)となりました。電気銅の海外相場は、6,756米ドル/トンで始まり、6月に2014年1月以来の高値である7,348米ドル/トンをつけましたが、期末には5,965米ドル/トンに下落しました。売上高は、電気銅の販売数量減少(63,768トン、対前年同期比4,413トン減)による減収がありましたが、電気金は、生産数量の増加に伴い、増収となりました。一方、営業利益は、買込条件の悪化や期末にかけて銅価格が下落したことなどにより、減益となりました。

電子部門の売上高は、49億64百万円(対前年同期比3億29百万円増)、営業利益は、3億80百万円(対前年同期比1億63百万円増)となりました。高純度金属ヒ素は、主要用途である化合物半導体用の堅調が継続し、結晶製品は、個別半導体用などが好調で、増収となりました。

化成品部門の売上高は、46億43百万円(対前年同期比1億4百万円減)、営業利益は、3億35百万円(対前年同期比8百万円減)となりました。亜酸化銅は、主要用途である船底塗料の需要が、前年9月のプラスト水規制前の前倒し需要の反動により減少し、減収となりましたが、めっき用酸化銅は、銅価格の上昇および販売数量の増加により、増収となりました。

金属、電子および化成品の素材事業の合計売上高は、698億48百万円(対前年同期比32億91百万円増)、営業利益は、10億33百万円(対前年同期比9億28百万円減)となりました。

不動産事業の売上高は、23億60百万円（対前年同期比73百万円減）、営業利益は、9億83百万円（対前年同期比58百万円減）となりました。2019年秋を目途に閉館予定の古河大阪ビルについては、テナント退出が進んだことにより、減収となりました。

当第3四半期累計期間の経常利益は、55億50百万円（対前年同期比17億42百万円減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、37億52百万円（対前年同期比5億29百万円減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、2,309億72百万円で、前連結会計年度末に比べ、87億60百万円増加しました。この主な要因は、現金及び預金の増加、上場株式の株価下落による投資有価証券の減少等です。有利子負債（借入金）は、899億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ166億36百万円増加しました。純資産は、825億2百万円で、前連結会計年度末に比べ、45億84百万円減少しました。これは、主として、上場株式の株価下落によるその他有価証券評価差額金の減少によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、前回（2018年11月7日）発表の業績予想との比較において、売上高は、産業機械部門では、大型プロジェクト案件の出来高増により、増収となる見込みです。また、電子部門では、化合物半導体用の高純度金属ヒ素が堅調で、増収となる見込みです。

営業利益については、産業機械部門では、大型プロジェクト案件および橋梁で、工事採算および原価率の改善などにより、増益となる見込みです。ロックドリル部門では、北米における油圧ブレーカの増収を主因として、増益となる見込みです。また、電子部門では、主として高純度金属ヒ素の増収により、増益となる見込みです。

なお、金属部門については、内外の不透明な情勢から、為替相場や銅価格、金価格の動向が見通せないため、前回発表どおりとしています。

以上の結果、連結全体の売上高および営業利益を上方修正し、これに伴い、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、それぞれ上方修正しています。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,201	24,147
受取手形及び売掛金	31,321	29,812
商品及び製品	15,575	15,322
仕掛品	8,027	10,425
原材料及び貯蔵品	17,569	14,431
その他	5,282	8,895
貸倒引当金	△131	△149
流動資産合計	87,845	102,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,431	23,538
土地	54,902	54,896
その他(純額)	11,631	11,424
有形固定資産合計	88,965	89,859
無形固定資産	227	217
投資その他の資産		
投資有価証券	39,959	33,232
その他	5,785	5,368
貸倒引当金	△572	△590
投資その他の資産合計	45,172	38,010
固定資産合計	134,366	128,087
資産合計	222,211	230,972

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,072	12,504
電子記録債務	10,644	11,694
短期借入金	35,953	33,100
未払法人税等	599	297
引当金	388	455
その他	18,663	16,959
流動負債合計	79,322	75,013
固定負債		
長期借入金	37,358	56,847
引当金	1,114	555
退職給付に係る負債	4,675	4,665
資産除去債務	219	223
その他	12,433	11,164
固定負債合計	55,802	73,456
負債合計	135,124	148,469
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	38,573	40,339
自己株式	△67	△1,276
株主資本合計	66,714	67,271
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,517	9,234
繰延ヘッジ損益	45	8
土地再評価差額金	3,465	3,431
為替換算調整勘定	182	59
退職給付に係る調整累計額	86	301
その他の包括利益累計額合計	18,297	13,035
非支配株主持分	2,074	2,195
純資産合計	87,086	82,502
負債純資産合計	222,211	230,972

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年 4月 1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)
売上高	122,530	129,543
売上原価	103,297	110,209
売上総利益	19,233	19,333
販売費及び一般管理費	12,946	13,151
営業利益	6,286	6,181
営業外収益		
受取配当金	561	670
為替差益	588	—
その他	943	451
営業外収益合計	2,093	1,122
営業外費用		
支払利息	450	426
休鉱山管理費	438	509
その他	198	818
営業外費用合計	1,087	1,753
経常利益	7,292	5,550
特別利益		
投資有価証券売却益	7	76
その他	8	17
特別利益合計	16	94
特別損失		
固定資産売却損	40	18
減損損失	102	48
テナント退去補償関連費用	1,041	—
その他	82	4
特別損失合計	1,266	70
税金等調整前四半期純利益	6,042	5,573
法人税、住民税及び事業税	961	870
法人税等調整額	670	796
法人税等合計	1,632	1,667
四半期純利益	4,410	3,906
非支配株主に帰属する四半期純利益	127	153
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,282	3,752

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年 4月 1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	4,410	3,906
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,109	△5,283
繰延ヘッジ損益	5	△67
為替換算調整勘定	△105	△53
退職給付に係る調整額	229	214
持分法適用会社に対する持分相当額	77	△51
その他の包括利益合計	5,316	△5,239
四半期包括利益	9,726	△1,333
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,590	△1,476
非支配株主に係る四半期包括利益	136	142

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日 至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	9,951	22,380	20,514	57,173	4,635	4,748
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,212	38	113	174	1	39
計	12,163	22,418	20,627	57,348	4,636	4,788
セグメント利益又は損失 (△)	171	1,422	1,854	1,402	216	343

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	2,433	121,837	692	122,530	—	122,530
セグメント間の 内部売上高又は振替高	96	2,676	1,178	3,855	△3,855	—
計	2,530	124,514	1,871	126,385	△3,855	122,530
セグメント利益又は損失 (△)	1,041	6,452	△119	6,333	△46	6,286

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△46百万円には、セグメント間取引消去22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△69百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	11,705	23,242	21,767	60,239	4,964	4,643
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,355	0	104	173	0	39
計	14,060	23,243	21,871	60,412	4,965	4,683
セグメント利益又は損失 (△)	793	1,401	2,104	317	380	335

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	2,360	128,923	619	129,543	—	129,543
セグメント間の 内部売上高又は振替高	15	2,688	1,222	3,911	△3,911	—
計	2,375	131,611	1,842	133,454	△3,911	129,543
セグメント利益又は損失 (△)	983	6,316	△87	6,229	△47	6,181

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△47百万円には、セグメント間取引消去26百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△73百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

前提

		今回予想	対前年同期増減
銅価	第3四半期累計決算 \$/mt	6,381	108
	年度予想 \$/mt	6,336	△ 108
為替	第3四半期累計決算 円/\$	111.1	△ 0.6
	年度予想 円/\$	110.9	0.0

2019年3月期 第3四半期決算短信 補足資料

2019年2月8日

古河機械金属株式会社

〔売上高〕

(単位:百万円 単位未満切捨て)

	2018年3月期 第3四半期累計期間	2019年3月期 第3四半期累計期間	対前年同期増減
機械事業	52,846	56,715	3,868
産業機械部門	9,951	11,705	1,753
ロックドリル部門	22,380	23,242	862
ユニック部門	20,514	21,767	1,252
素材事業	66,557	69,848	3,291
金属部門	57,173	60,239	3,066
電子部門	4,635	4,964	329
化成品部門	4,748	4,643	△ 104
不動産事業	2,433	2,360	△ 73
その他	692	619	△ 73
【合計】	122,530	129,543	7,012

2019年3月期	
年度予想	対前年増減
78,000	4,546
18,500	2,628
30,000	△ 199
29,500	2,118
92,700	2,712
80,200	2,865
6,400	92
6,100	△ 244
2,800	△ 538
1,100	183
174,600	6,904

〔営業利益〕

	2018年3月期 第3四半期累計期間	2019年3月期 第3四半期累計期間	対前年同期増減
機械事業	3,448	4,299	850
産業機械部門	171	793	622
ロックドリル部門	1,422	1,401	△ 21
ユニック部門	1,854	2,104	249
素材事業	1,962	1,033	△ 928
金属部門	1,402	317	△ 1,084
電子部門	216	380	163
化成品部門	343	335	△ 8
不動産事業	1,041	983	△ 58
その他	△ 119	△ 87	31
(計)	6,333	6,229	△ 104
調整額	△ 46	△ 47	△ 0
【合計】	6,286	6,181	△ 105

2019年3月期	
年度予想	対前年増減
6,100	1,016
1,800	794
1,500	△ 282
2,800	504
800	△ 848
0	△ 867
400	69
400	△ 51
1,000	△ 339
△ 150	46
7,750	△ 125
△ 50	5
7,700	△ 120

※参考情報(以下の数値は参考値です)

1.産業機械部門受注残

産業機械については主に受注生産を行っており、当第3四半期会計期間末における受注残を示すと、次の通りです。

	2018年3月期 第3四半期会計期間末	2019年3月期 第3四半期会計期間末	対前年同期増減
受注残	126億円	161億円	34億円

2.金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2018年3月期 第3四半期累計期間	2019年3月期 第3四半期累計期間	対前年同期増減
営業利益	14.0億円	3.1億円	△ 10.8億円
内価格影響分	7.5億円	△ 0.2億円	△ 7.8億円
銅	(6.8億円)	(△ 0.0億円)	(△ 6.9億円)
金	(0.7億円)	(0.1億円)	(△ 0.6億円)

2019年3月期	
年度予想	対前年増減
0.0億円	△ 8.6億円
△ 2.4億円	△ 3.5億円
(1.6億円)	(△ 0.2億円)
(△ 3.4億円)	(△ 2.8億円)